

自然観察会報告
桶ヶ谷沼自然観察会
石川章子



ビジターセンターの福井所長から説明を聞く



桶ヶ谷沼でトンボなどを観察

桶ヶ谷沼は東日本唯一のベッコウトンボの生息地であり、70種ものトンボが生息する地として全国的にも注目されています。日本国内で見られるトンボが約200種、県内全域で見られるトンボが約100種という中で、桶ヶ谷沼の70種はとても多いといえます。県の自然環境保全地域に指定されていて、トンボの他にも野鳥164種、植物650種など種の多様性に富んでいます。

集合場所のビジターセンター内では、カミキリムシとテントウムシの写真展をやっていました。水槽の中にはアメリカザリガニやタイリクバラタナゴなどの外来生物や、アカハライモリやトンボの幼虫ヤゴなどを飼育展示してあり、陸上からはなかなか観察しにくい生物もここで見るすることができます。貴重なトンボを中心とした昆虫標本も数多く展示してありました。

まず、ビジターセンターの福井順治所長から桶ヶ谷沼の特徴、生物、保全の歴史、ビジターセンターの役割について伺いました。水源は地下水で、流入している川がないために生活水や農業水が入ってこないこと、護岸していない水辺が多様な水草を育み、森に囲まれ多様な食性に対応できるなど、そのままでも非常に恵まれた環境条件が成り立っているのですが、適度に人の力を加えて整備することで桶ヶ谷沼の自然が守られていると知りました。

観察したのは、沼を囲む自然の地形を生かし

た全長約2kmのコースで、歩いて2時間程度でした。時期が少し遅かったため、ベッコウトンボは見られませんでした。モノサシトンボ、キイトンボ、ベニイトンボ、アオイトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボなど数多くの種類のトンボを見ることができました。フォトジェニックのヤブヤンマはカメラを構える私達の前を空中で何度も止まって、シャッターチャンスを与えてくれました。細い胴にモノサシの目盛りのような柄があるモノサシトンボ、ひらひらと黒くて幅の広い翅で飛ぶチョウトンボ、アオヤンマはクモの巣に突っ込んでクモを採るなど、多くの種類のトンボを一度に見比べることができ、飛び方も姿も色もそれぞれ違い、個性豊かな特徴をもっているとよくわかりました。

他にも翅を広げて休んでいるルリタテハ、頭が赤く、黒い翅に白い帯がとっても目立つホタルガ、ススキの葉の上で後肢を動かす、シャカシャカ音を立てているナキナゴも観察できました。また、コースの脇に白いレースのスカートを履いているような優雅な姿のキヌガサタケが生えていました。雨が続いた後だったからか、森の中には他にもたくさんキノコが生えていました。

残念ながら今年は見られなかったベッコウトンボですが、ビジターセンターの標本を見て、姿を覚えてきました。来年は見られたいなあ。